

タンク内未処理水の処理手法決定 タンク内未処理水の処理開始 (補足説明資料)

2022年12月19日



東京電力ホールディングス株式会社

- 濃縮廃液上澄み水は、希釈処理にて処理する方針。
- これまでのALPS処理実績を参考に希釈倍率を検討したところ、日々発生するSr処理水にて20倍程度に希釈することでALPS処理可能と考えている。2023年度から試験的先行処理を開始する計画。

➤ まずは、近々で処理しているSr処理水と同程度の濃度となる様に200倍希釈から試験的先行処理を開始し、20倍希釈まで除去性能を確認しながら段階的に希釈倍率を低下させていく。その後、2025年度以降から本格処理を開始する計画。



2. 『濃縮廃液スラリー（H2エリア）』

■ 処理手法決定（2022年度）

- 濃縮廃液スラリーは、スラリー安定化処理設備のフィルタープレスで処理する方針。
- 現状、模擬スラリー作製にあたり、フィルタープレスでの処理条件である「粒形分布」や「粘度」等の調製方法を検討しながら模擬スラリーを数サンプル作製中。
- 今後、上記の模擬スラリーにてビーカーレベルの試験を実施し、フィルタープレスで適用予定のろ布にて脱水可能か確認。
- 現在、フィルタープレス機の小型化を検討しており、設計内容が固まり次第、実機（フィルタープレス機）によるコールド試験も計画。また、長期間貯蔵によるスラリーの性状変化の確認の為、実スラリーの調査を実施予定。
- スラリー安定化処理設備へのスラリー移送は、過去にH2エリアへの移送実績がある事から実施可能と考えている。（今後、発生由来が同一のスラリーを移送予定であり、その際に移送性を確認）

